

そなえておこう、命のお水

世田谷区立城山小学校

四年二組

前田 唯衣

「お母さん！お水が出ないよ！」

私は朝から大声でさけびました。

顔を洗おうと思っ て蛇口をひねったのに、水

が一滴も出てこなかったからです。びっくり

して、お母さんの所にかけてよると、

「今日は定期検診でてい電だから水道も使

えなくなっ てしまったのよ。」と教えてくれ

ました。その瞬間、私は少し不安になりました

た。いつも当たり前に使っ ている水が、急に

使えなくなるなんて想ぞうもしていなかった

からです。ふだんは何も考えずに水を使っ て

いたけれど、水道が止まる事で私たちの生活

がどれだけ不便になるか、この日は身をも

て知るこ となりました。

まず一番困ったのは、トイレです。朝、目

がさめてトイレに行きたかったのですが、水

が流せないと分かると、使うのをためらいま
 した。いつもならレバーをひねれば水がジヤ
 ーッと流れるのに、今日はそれができないの
 です。どうしてもがまんできなくなったので、
 お母さんと相談して災害用の簡易トイレを試
 してみよう事にしました。実さいに使用してみ
 ると、簡易トイレ自体は案外使いやすかつた
 のですが、予想外に困った事は使用後の簡易
 トイレをほぞんする事でした。臭いも気にな
 るし、どこに置けばいいのか迷ってしまいま
 した。ほんの数時間でも大変だったのに、こ
 れが毎日続くなんて考えると、とても耐えら
 れないだろうと思いました。

次に困ったのは、生活用水が使えなくなっ
 た事です。お母さんが前もって飲み水を用意
 してくれていたもので、のどが渇く事はありま
 せんでしたが、それ以外のことには使う水が全
 然足りません。そこでお母さんが、「コップ
 一杯の水で顔を洗って見たら？」と言ってきた
 ました。私は最初、それだけの水で本当に顔

が洗えるのか不安でしたが、やってみると意
 外ときちんと洗えました。ただ、ふだんのよ
 うにたっぷりと水を使いたいという気持ちは
 強く残りました。

今回のてい電と断水は、たった二時間ほど
 で済みましたが、その間に私は水がどれだけ
 大切かを強く感じました。もしこれが長期間
 続いたら、私たちはどうやって生活すればい
 いのかを考えると、とても不安になりました。
 特に、自然災害で断水が何日も続いた場合、

そのえいきょうはどれほど大きいでしょうか。
 そこで私は、私たちがふだんだけの水
 を使っているのか調べてみる事にしました。
 例えば、トイレを一度流すだけで四リットル
 もの水が必要で、シャワーを一分間使うだけ
 で十二リットルもの水が流れていきます。料
 理をする時にも、飲み水を含めて一回の食事
 で二から三リットルの水が必要です。そして、
 一日に私たちが使う水の量は、なんと約二百
 八十九リットルにもなるそうです。これは、

ニリットルのペットボトルで約百四十四本に相当します。

また、今年一月に能登半島で起きた地震では、一万戸もの家庭が断水し、水が使えなくなつたと聞きました。東京都水道局がはげんこれ、漏水調査や修復を行っていたそうです。完全に水が戻るまでには時間がかかつたそうです。被災地の人々は山の水や雨水を使つて何とか生活をしていたと聞きました。

私は東京に住んでいます。もしここで大きな地震が起きて、水道管が壊れたらどうなるのかと考えると、とても不安です。家の周りには建物ばかりで山も川もありません。水道が使えなくなつたら、生活が一気に不便になります。さらに、水道の復旧には時間がかかるかもしれませんし、完全に元に戻るまで数週間、場合によってはもっと長い時間がかかるかもしれません。だから、今できる事をしっかりと準備しておく必要があると思います。まず、災害に備

えて水の備蓄をする事が大切だと思いました。家族全員が最低三日分、つまり一人あたり三リットルの水を準備しておくべきだそうです。また、家の近くにある災害時給水ステーションの場所を確認してみました。調べて気づいたのが、私の家からはどの給水所も遠いという事です。今回、私の家では停電で水が止まってしまう事が分かったので、「東京防災」のサイトを参考に七日分五十九リットルの水を用意することにしました。

この体験を通じて、私は水道が使える事のありがたさを改めて感じました。普段、何気なく使っている水が、実はとても大切に貴重なものだということをお忘れずに、これからもしっかりと水を大切にしたいです。災害に備えられるような生活を心がけたいと思います。そして、みんなにも、こうよびかけたいです。

「そなえておこう、命のお水」